

地域活動団体と企業との連携 鳥川ホタル保存会（鳥川町）へのフタバ産業（株）の地域支援活動の結果の検証・課題の分析

（課名・係名）

市民生活部

額田支所

| 現 状 | 支援内容、活動等 | 課題と展望 |
|---|---|--|
| <p>【額田地域の概要】 岡崎市の東部に位置し地域の約85%を森林が占める。小学校は5校、中学校は1校あり旧小学校区単位でコミュニティーを形成しており、コミュニティごとに地域おこし活動を展開している。（例）くらがり溪谷の紅葉やサウンドフェス（宮崎学区）、ホタル祭り（旧鳥川学区）、道の駅風マルシェ（豊富・夏山学区）、ウォーキングイベント（下山学区）、鯉のぼりあげ（形埜学区）、山里アート（旧千万町学区）</p> <p>【額田地域の現状】 人口は年々減少している。（2009年⇒2019年で-1,152人）※ 2009年⇒2019年で-1,152人（年少人口-271人、生産年齢人口-1,397人、老年人口+516人） 高齢化率は増加の一途※2009年⇒2019年で約10%増加（2009年26.1% 2019年36.4%） （少人口：15歳未満 ・生産人口：15歳以上65歳未満）・老年人：65歳以上）</p> <p>【旧鳥川学区について】 令和元年4月1日現在、人口は148人、高齢化率は41.1%。平成6年に自然環境の保護と意識の高揚を目的として「鳥川ホタル保存会」を結成し現在、74名が在籍している。 平成22年3月に閉校した旧鳥川小学校を活用し、平成24年4月にホタル学校がオープン。毎年6月に鳥川ホタル祭りを開催し、多くの人々が訪れておりホタルの保存活動として草刈などの周辺環境美化、山里の管理として倒木等を撤去し散策路の整備など自然環境の保護のための様々な活動を展開しているが、<u>担い手不足により活動に支障をきたすようになっている。</u></p> | <p>【フタバ産業支援理由】 ・自動車部品メーカーとして、ホタル保存会のホタルを通じての自然環境保全活動の主旨に賛同し支援を決定。</p> <p>【鳥川ホタル保存会・フタバ産業・市打ち合わせの実施】 ・平成30年12月14日（金）：第1回打ち合わせ 3者の顔合わせ。市より地域支援事業の概要を説明。ホタル保存会の設立から現在のまでの活動状況の説明。 ・平成30年12月27日：第2回打ち合わせ ホタル保存会から、ホタル祭り期間中の交通整理などの人員協力及び、案内看板、案内チラシの支援をフタバ産業に要望。 ・平成31年1月18日：第3回打ち合わせ 看板と案内図の仕様案、支援スタッフの作業内容と必要な人数の協議 ・令和元年5月10日：第4回打ち合わせ ホタル祭り期間中の人員協力の詳細打ち合わせ。看板、チラシの物品の納品等の打ち合わせ。 ・令和元年7月26日：第5回打ち合わせ ホタル祭り期間中に実施した支援活動について課題及び今後の支援について打ち合わせ。</p> <p>【支援活動】 ・物品支援 案内看板 10枚 案内チラシ 500部 ・人員支援 6月1日から6月16日のホタル祭り期間中の4日間、交通整理、案内、誘導に延べ29名</p> <p>【支援結果の検証】 活動に対する地元の声 ・案内看板がとても分かりやすく効果があった。 ・地元住民は今回の支援をとってもありがたく思っている。 ・今年はホタルの飛翔ピークが遅く支援活動日ではない6月22日に多くの来訪者があり交通整理に苦慮したので、来年は支援日を増やしてほしい。</p> <p>フタバ産業の声 ・夜間の支援活動ともあり心配したが、トラブル無く終了できてよかった。 ・地域の方からもてなしをいただきありがたかった。 ・ホタルが飛ぶのを初めて見て感動した。とても良いところなので今度は家族と来たい。 ・名古屋や田原などの遠方からの参加者もあり、日曜日の参加は次の日が辛かった。</p> <p>鳥川保存会、フタバ産業との双方に成果があった</p> | <p>【今回の事例について】 ・市民活動総合補償保険制度が非該当となるので、フタバ産業での保険の加入が必要となった。 ⇒愛知県社会福祉協議会のボランティア行事用保険は対象となる。1人当たりの保険料が安価となるので来年度以降はこの保険に加入する。</p> <p>・人員支援は6月のホタル祭り期間中の土日、計4日で実施したが（2日間は雨のため中止）、今年はホタルの飛翔のピークが遅く22日（土）に多くの来訪者が来た。遠方からの支援参加者も日曜日の夜に参加すると深夜の帰宅となるため、次の日の仕事が辛くなる。 ⇒来訪者は土曜と日曜を比べると土曜日の方が多いため、支援の総日数は変えずに日曜日を減らし土曜日を増やすことにより、両者が無理なく活動できる。</p> <p>・フタバ産業の参加者の中には、初めて鳥川地区を訪れホタルの保存活動を始め鳥川地域に触れることにより、今度は家族と訪れたいという声があった。これを機会に今回の支援事業の枠を超えた鳥川地域の活性化に期待したい。</p> <p>・鳥川保存会としてフタバ産業からの支援期間中に、自立した地域活動の形成を検討する。</p> <p>【地域コミュニティ、企業、市との連携全般について】 ・市内の中山間地域には、企業の支援を求める地域コミュニティがあるが情報を発信できていない。 ⇒市ホームページに支援を求める地域コミュニティの情報を掲載し、地域貢献に関心のある企業とを結びつけるサポートをしていく。</p> |
| <p>【地域コミュニティと企業を行政が繋ぐ】 人口減少及び高齢化により活動に支障をきたしている地域コミュニティ活動に対しCSR※活動を望む民間活力を導入する。開始時においては地域コミュニティと企業を繋ぐパイプ役を行政が担い、将来的には地域と企業が直接繋がり、行政がその繋がりの中で協力をしていくことを目標とする。 ※CSR (corporate social responsibility: 企業の社会的責任) ⇒企業が倫理的観点から事業活動を通じ、自主的に社会に貢献する</p> <p>行政の役割 平成30年11月から市内企業（5社）に対し鳥川ホタル保存会の現状を説明し支援に対する協力のについてヒアリングを開始した。その結果、フタバ産業株式会社が支援に賛同いただけることとなった。</p> | | |